

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 吉田向陽会 むれが岡 風車の宿
(ユニット名)	むれが岡風車の宿
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市牟礼岡1丁目3-7
記入者名 (管理者)	高橋 恵實子
記入日	平成 20年 5月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	グループホームの意義を職員全員で確認し、地域の中で普通の生活ができるように配慮する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	ケアについて統一的理解を出すようにしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	HPで施設の理念を地域の人に知ってもらおうようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の人がおやつ差し入れをしてくださったりしている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ゴミ出しや草取りなどで、地域の人たちとよく話しをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のお達者クラブなどで、認知症の話をしたりしている。	○	老人会などの集まりなどに施設長が招かれることが多く、その場を利用して、ケアの方法などを話している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は特定の人が記入するのではなく、分担して記入しているので、記入するごとに意義づけができるようにしている。	○	自己評価をより一層職員全員で行うように心がけたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で検討した出来事は、スタッフ会議で話し合うようにしてある。	○	運営推進会議で話し合ってもらいたい事や、アドバイスしてもらいたい項目をスタッフ会議で話し合っていくようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の市役所支所と密に連携を取り、サービスの質向上に努めている。	○	定期的に訪問してもらえるよう相談する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、勉強不足で、数人を除いて知らない。今年度はソーシャルワーカーが入社したので、勉強していきたい。	○	地域福祉権利擁護事業については、実際は行っているが、契約書までは取り交わしていないので、早急に手をつけたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、スタッフ会議の度に話し合っている。	○	外部研修等を取り入れることにより、より一層虐待についての知識を深めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所するとき、十分に時間をとって理解を深めている。	○ 金銭や権利、義務だけでなく、ケアに関する考え方や手法についても説明していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者によって相談しやすい人とそうでない人がいるので、相談しやすい人に話を聞きだしてもらうようにしている。	○ 介護相談員の訪問回数を増やすようにしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回必ず家族へ利用者の様子を報告するようにしている。	○ 家族が施設を訪問されたときは、湯茶やお菓子のおもてなしをしながら、お話を伺える雰囲気を作っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	バイタルチェック表を毎月送り、体調について、質問ができるように心がけている。	○ 家族の方が、訪問されたとき、利用者からの訴えを聞き出してもらい、後で内容を教えてもらう。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で、運営に関する意見交換をするようにしている。	○ 連絡帳などで、職員の意見を吸い上げるようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の通院や急な外出に対応するために代替職員を確保している。	○ 勤務シフト上長時間勤務にならないよう配慮している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動も極力避けるよう配慮している。	○ 万一異動しなければならぬ時には、時間の余裕をとるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回はテーマを決めて職員が交替でチューターとなって研修を行っている。	○ 外部研修を受ける機会を増やしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に連絡会があり、それに参加することによって情報を交換し、サービスの向上に努めている。	○ 広域のネットワークに参加していないので、今後検討したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長は1日1回はスタッフと話をする機会を作っている。	○ ストレスの原因が制度にあるのか、人間関係にあるのか、絶えずその背景をさぐるようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格と待遇をリンクさせて職員の向上心を盛り上げるよう工夫している。	○ 施設長も行事にスタッフとして参加し、共通性を持つようにつとめている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約以前に施設を訪問してもらい、制度や居室やケアの内容などを十分に話し合う。	○ 話し合いの中で家族の悩みや要望を事業所側が十分に理解できるようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	あらゆることを全面的に受け入れるように配慮する。	○ 事業所側が安易に何でも引き受けるのではなく、運営上無理なことや規則上できない事はよく説明する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今1番困っている点に焦点を当て、それを解決することに力点を置く。	○	多様なニーズを発見したとき、他の介護サービス機関や包括支援センターなどにつなぐ。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所をまず見学してもらうことや体験入所などをしてもらって、徐々に入居へと移行する。	○	結果的に、退入居になった場合は、家族に数日同居してもらうなどの配慮をする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護してあげる、介護してもらうという上下関係を作らず、お互い様の心で支え合う。	○	人生の先輩として尊敬する心情で接する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業者と利用者のように区切りをせず、同じ家族として接するようにしているが、各利用者の状況を探り、利用者全員に一律に行うようにはしない。	○	利用者全員に対して、苦しさ・辛さを分かち合える関係を作る。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が自分の言い分だけ言い合うような関係から、理解していく方向へ支援していくよう努める。	○	家族と本人が疎遠な関係になっている場合もあるので、間に入って修復していくようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友達に電話をしたり、遊びに来てもらうような手伝いをしている。	○	家族だけではなく、関係者にも月1回のお便りを届けるようにしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間に共通話題(昔話など)を提供し、お話ができるようにしている。	○	お掃除や洗い物などを誘いあって、話ができるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了の場合でも、電話による様子伺いや案内文などを送ったりしている。	○	行事に招待したり、お茶のみに誘ったりしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたい、家族に逢いたい等の気持ちを受け止め、訴えを聞き、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	○	ご利用者の訴えをよく聞き、ご家族にお伝えする。ご都合の良い時には、来訪をお願いしたり、お電話を頂けるようお願いする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人のお話から、これまでの暮らしや仕事を知り、支援の方向を見つける。	○	花を育てたり、生き物を育てる。庭の草取りなどの他、編みものや手芸、折り紙等生かして暮らしを豊かにしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の量の確認と、1日2回のお茶の時間にバイタルチェック(血圧測定、排便の有無の確認)をし、心身状態の把握に努めている。	○	出来る仕事(掃除機やモップ掛け、洗濯物たたみ)をお願いしている。調理の下ごしらえなども出来る範囲でお願いする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のケアで、暮らしの様子を見守りながら、気づいた事をスタッフ間で共有し、ご本人の思いを受け止めて、介護計画を作るよう努めている。	○	入居者の皆様が一日一日をよりよく過ごして頂くための介護計画を作っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行っており、それ以前に変化があった場合は、毎日のスタッフ会議において取り上げ、スタッフ間で把握し、確認し、必要なケアにつなげている。	○	モニタリングにより、気づいたことや、ご家族のご希望等をもう少し取り入れて計画を作成していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	8名の利用者の毎日の個別の記録を、担当するスタッフにより記録し、情報を共有するように努めている。必要な事項については、連絡ノートに記入し、ミスや漏れのない様に計っている。	○	毎月のスタッフ会議により、情報を確認し、介護計画の見直しに活かしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	保育園と併設された事業所であり、毎週木曜日に行われている、保育園との交流は、利用者の方々に大変喜ばれている。園児達の来訪を心待ちにしておられる。また、ご家族の訪問は、夜間でも常時受け入れるなど、小規模な施設であるが故の利点を多いに活用している。	○	ご近所の方々がいつでも気軽に遊びに来て頂けるよう、リビングを開放できたらとも考えている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2週間に1回程度、利用者の希望により、図書館に行き本を借りたり、往復の短いドライブを楽しんでいる。	○	出来れば、もっと多くの方に参加して頂けるよう、努めたい。 (利用者の参加増、ボランティアの受入増)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望により、現在3名の方が訪問マッサージを利用されており、居宅のケアマネジャーや、包括支援センターとも連携している。	○	他のグループホームの方々の訪問を受けたり、他の事業所の行事(もちつきや音楽会)に参加したりしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に行っている運営推進会議への参加をお願いし、出席いただいている。(紙おむつ申請時の書類作成等)	○	権利擁護について利用者とそのご家族の「経済」と「情」についてどの様にお手伝いできるか検討している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慢性疾患については、定期健診(4週に1回)と投薬を受ける。急病のときには、随時受診。訪問診療については2週間に1回の割合で受診している。	○	リハビリ通院に関しては、ご家族をお願いしている。精神科からの往診は毎週1回ある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	高血圧や糖尿病がある方は、内科医を受診したり訪問診療を受けているが、2名の方は精神科より往診が来て受診している。他1名は心療内科を受診している。	○	ご利用者のそれぞれの認知症から来る症状を理解し受け止める。スタッフは病気による様々の行動を理解する。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	個々の事例において、その都度電話などで相談している。	○	服薬管理については、手渡すだけでなく、確実に服薬出来ている事を確認する。 (落としていたり、故意に隠したりする事の防止)
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	各自の担当医に相談している。 入院中の場合は、病院を定期的に訪問したり、ご家族のお考えを確認している。	○	状態が安定した場合には、早期に戻れるよう計り支援していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者のかかりつけ医との連携により判断している。	○	ご家族との確認はとれていない方もあるが、重症化した場合について話し合い確認していききたいと考えている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、リハビリパンツ使用者は6名ありますが、2名は自分で交換できている。(時折介助必要) 寝たきりの方は無く、全員自分で起き上がれるが、起き上がれなくなったときの用意は十分ではない。	×	ストレッチャーが必要な場合、シャワー浴が出来るところまで出来るか検討していききたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	こちらのグループホームから他に移った方はまだいないためしていない。	×	必要なときにはしていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご家族と離れて暮らす寂しさを理解し、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応に努めている。	○ パーソン・センター・ド・ケアの考え方を理解し、寄り添い安心して過ごして頂けるように努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日のケアの中で、働きかけ、利用者の思いを知り、寄り添っていけるよう努めている。	○ 本人の言った言葉を繰り返し、思いや希望を表せるように働きかける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、その方のご希望とペースを守りながらも、楽しい時間をゆつたりと過ごせるよう、工夫している。	○ 歌の好きな方には、懐かしい歌(童謡や叙情歌)の本を用意したり、花の好きな方には花卉を用意するなどしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起きたままお食事ではなくて、身なりを整える声掛けをしている。訪問理容をお願いすることもあるが、美容院に行っている。	○ 近くにある美容院に行ったときは、終了時に連絡を頂いてお迎えに行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冬は切り干し大根を作ったり、春はつわや竹の子の皮むきなどの下ごしらえをお願いしたり、一緒に準備や片付けなどしている。	○ 季節の野菜を取り入れた、懐かしい料理を用意したり、味付けを確認して頂いたりしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や煙草を嗜む方はいないため、用意していない。10時と15時のおやつ時間に飲み物やおやつのご希望を聞いている。	○ ご希望を聞いて、団子づくり等に参加して頂き、おやつ作りを楽しんで頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ利用者は6名あるが、おむつ利用の方は無く、2名は自分で替えることが出来ている。(時折介助が必要)皆歩けるので、大便是トイレ(又はポータブルトイレ)で出来ている。	○	自分で着替えられる2人は、夏場はリハビリパンツを使用しなくても、出来ると思われるので取り組みたい。4名の方は、入浴日でない日は清拭している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人でゆっくり入浴して頂くため浴槽に浸かられたときに、介助者が少しの時間席を外し、控えている。 入浴タイムについては、いつでもというわけにはいかない。	○ ×	入る順番については、検討する余地があると考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を干し、清潔に保ち、ベッドを整え、季節に合った寝具を用意している。	○	ベットに入るとつい眠ってしまわれるため、ソファでの休息も考えていく。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	保育園と併設されたグループホームであるため、毎週1回(木)に保育園児との交流を持っており、入居者のほとんどの方はとても楽しみにされている。 出来る作業(洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、掃除機など)をお願いしている。	○	出来ること(編み物や手芸)などを楽しんで頂けるように用意する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の欲しいものを購入するために外出日にスターに行き、ご自分で支払っている。(1000円程度) (受診代、理美容代等必要な預かり金は、管理者が預かっている。1万円以内)	○	買い物に必要な(1000~2000円)お金は、その日に用意してお渡ししている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩(スタッフが同行) 園庭の散歩(隣接の保育園の敷地で、ベランダから自由に出来る)	○	廃用性症候群の防止のためにも進めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回程度、外出日を設定しており、吉野公園や、石橋公園に車を利用して外出している。時にはそうめん流し・花見など。	○	ご家族との外出や、行きたいところ(図書館など)への外出の支援を応援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があるときには、いつでも電話できるし、ご家族からの電話は必ず取り継ぐようにしている。	○	手紙を書かれる方は、2名いる。いつでも切手を用意しており、手紙をお預かりしてすぐ発送できる。(他に2名の方は手帳によくメモされている。)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の方々は、全て地域の方なので、ご家族や馴染みの方において頂けるよう、いつでもオープンにしている。	○	訪問された方々で、気軽においで頂けるように、時々に応じて、居室や自室にお通ししている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を持ち、勉強している。	○	実際的に身体拘束している方は無いと考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で、鍵をかける事の弊害を勉強し、日中はできるだけ鍵をかけないようにしている。	△	スタッフの人数が少ない時に、よく徘徊される方が不穏の時には鍵をかける事もありますが、一緒に歩くなどして落ち着いて頂き、できるだけ鍵をかけないよう努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は1時間毎に入居者のご様子を確認している。(いつもそっと見守るようにしている。)夜間帯は、2～3時間毎に確認している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤等は目の届くところで使用して頂き、使用したあとは、片付けることにつとめる。	○	台所の刃物やトイレや風呂場の洗剤等を整理し、片付ける。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	徘徊される方が不穏状態にあるときは、寄り添い一緒に歩くなど一人一人に対応し、万一のときはマニュアルに添って対応する。 定期的に火災の避難訓練をしている。	○	転倒事故防止のために、外出や散歩により下肢筋力の向上に努めている。誤嚥や窒息の防止のための調理の工夫をする。 服薬管理については、手渡すだけでなく、確実に飲まれることを確認していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご利用者全員のかかりつけ医を確認し、スタッフルームの壁に掲示しており、夜間(24時間対応)の居宅療養管理指導を受けている方も2名あります。	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は定期的に行われているが、地震や水害については、まだ十分に考えられていない。	△	地域の方々との協力を頂けるようお願いしていく。(グループホームをオープンにして、ご理解頂けるようご説明する。)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が来られた時々と担当者会議の席で、お伝えして、対応策を話し合っているが、御家族によっては、「お願いします。」と言われるだけの方もいる。	○	ヒヤリハットの報告を確認して、起こりうるリスクをスタッフ間で確認していききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ホーム日誌と連絡ノートで伝え、必要なことは口頭でも伝えていく。 血圧と体温のチェック	○	体調の変化を見逃さないため、常に健康状態を確認する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状により確認している。 薬が変わった場合、ホーム日誌、連絡ノートで確認している。	○	薬の手渡しだけでなく、確実に服薬された事を確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	季節の野菜を多く取り入れたメニュー作り。 毎日の排便のチェックと散歩等の軽い運動。 緩下剤の服用	○	排便のチェックの確認が困難な方は、陰部清拭(温タオル清拭)により、清潔と排泄のチェックも出来ている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の入れ歯磨きとうがいを確実にを行うように努める。 夜は入れ歯洗浄剤を使用している。	○	昼食後は確実に出来ているが、朝食後の夜勤から日勤への引継ぎで洩れることがある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量と水分量をチェックし、10時と15時のお茶のときに補水に努めている。	○	水分量(補水)の確保の為、麦茶を自由に飲んで頂いているが、必要な方にはミネラルウォーターを用意してある。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいの励行、入浴と清拭、手すりや取っ手の消毒に努める。	○	酸性水で拭き掃除する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔に努め、調理器具や食器を温風で乾燥している。 新鮮な食材を使用するように努め、検食を残している。	○	古い食材は処分し、冷蔵庫内をいつも清潔に保つ。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉から入るとすぐスロープになり、リビングの入り口へ続いているため、そちらが通用口になっている。 車椅子もそちらの方から出入りするため、周囲を片付けて通りやすくしている。	○	リビングのガラス戸に通用口になっていることを示すことが必要かもしれません。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースについては整理整頓に努め、風呂・トイレ・台所はいつも清潔に保つよう心掛けている。 リビングの大きなガラス戸から見える中庭は季節を感じさせる。光と緑にあふれていて、廊下から見える山のうへの風車は、心安らぐものとなっている。	○	中庭にベンチチェストと用意する等して、外の風に吹かれる心地よさを感じて頂ける努力をしていきたいと考えています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、利用者の身体状況と人間関係を考えて決められているため、席の近い方同士で思い思いに過ごされている。	○	居間のソファで過ごされるメンバーがいつも同じであるような場面もあり、工夫の必要があるかもしれない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くない(9.3㎡)が、自分なりに飾られたり、ボードの上にぬいぐるみ等を並べ徐々に自分のスペースを作られています。 洗濯物や衣類の整理等ご自分で出来る方には手を出さずに見守るようにしている。	○	スタッフに「部屋に入らないでください。」と言われる方のお部屋をもう少し片付けたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋には換気扇が取り付けられており、必要に応じて大きなガラス戸を開けて換気している。要介護度の度合いに応じて、オゾン発生器を取り付けている部屋もある。エアコンも利用者のご希望と体調に合わせて調整している。	○	同じ温度設定でも、部屋の位置により実際の温度が異なるため、エアコンの温度設定には気を配りたい。(夏は冷えすぎないように、冬は暑すぎないように)
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりをつけてあり、浴室の内側と入り口にも各利用者の身体機能を考え、手すりやグリップをつけている。車椅子の方のために、ベッドに介助バーをつけ、トイレに立ち上がりのためのバーも用意した。	○	洗面所が1ヶ所であるため、廊下奥にもう1ヶ所車椅子が入る様な洗面台を取り付けられたら、使い勝手が良くなるのではと考えている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の入り口に写真を貼り、自室の目印としている。「トイレ」「浴室」「洗面所」も夫々間違わないように案内されている。	○	目が悪く方向がわからない方のための良い方法を考えていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で花を育てたり、ベンチチェストを置くなどくつろぎの空間を作るなどしている。	○	生き物の世話をされることを楽しみにされる方のために、鳥小屋を作り、現在鶉(うずら)を飼育している。毎日「卵は生まれたか」とお世話を楽しみにされている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、恵まれた環境にあると思います。山の中腹の静かな住宅街の中にあるため、光と緑にあふれた素晴らしい住環境です。同じ敷地内の保育園と併設されているため、毎週木曜日には、園児達との保育園交流があり、保育園児（0歳から6歳）たちの訪問は、入居されている方々に大いなる慰め、良い意味での刺激ともなっています。子ども達の愛らしさに笑顔がこぼれています。花や生き物を育てる楽しみと、調理スタッフの懐かしい料理や美味しい料理にも大変喜ばれています。